



真駒内地域とは？

1972年札幌五輪に合わせて開発された緑豊かでのどかな住環境を有する地域。
 → 団地・公共施設の老朽化 / 少子高齢化・人口減少などの問題が顕著。
 地域の魅力向上 / 建物の更新の必要性から再整備が計画されている。

<1972年 札幌五輪>

今ある真駒内の姿になった1972年札幌五輪に伴った開発。廃墟化する五輪施設が多い中選手村、メイン会場が五輪のレガシーとして今も多く施設が保存・活用されている数少ない都市。



<1946年 米軍駐留>

1946年 真駒内種畜場が米軍により接収され米軍駐留軍の基地が建設された。隊舎やゴルフ場、宿舎、教会などが造成され1959年の返還後も自衛隊基地への転用やゴルフ場→真駒内公園、隊舎→資料館など当時の建物や要素が現存。



<1876年 農場開拓>

1876年 エドウィン・ダンの指導の元、開拓使真駒内牧場が創設された。1886年には真駒内種畜場と改称し、1946年の米軍に接収され農場・牧場が姿を消すまでの70年間馬、牛、鶏、豚などの酪農畜産、農業が発展した。



根付く価値観

真駒内では開発が行われようとする際、ほぼ毎回のように反対運動が発生する。日本ハムファイトーズの本拠地移設案に真駒内の名が挙がった際の反対運動が記憶に新しい。農場・牧場の原風景を失いながらも「緑豊かでのどかな真駒内」という価値観は失われずに引き継がれ醸成され、街が発展していった結果なのではないだろうか。

真駒内駅から広がっていた風景

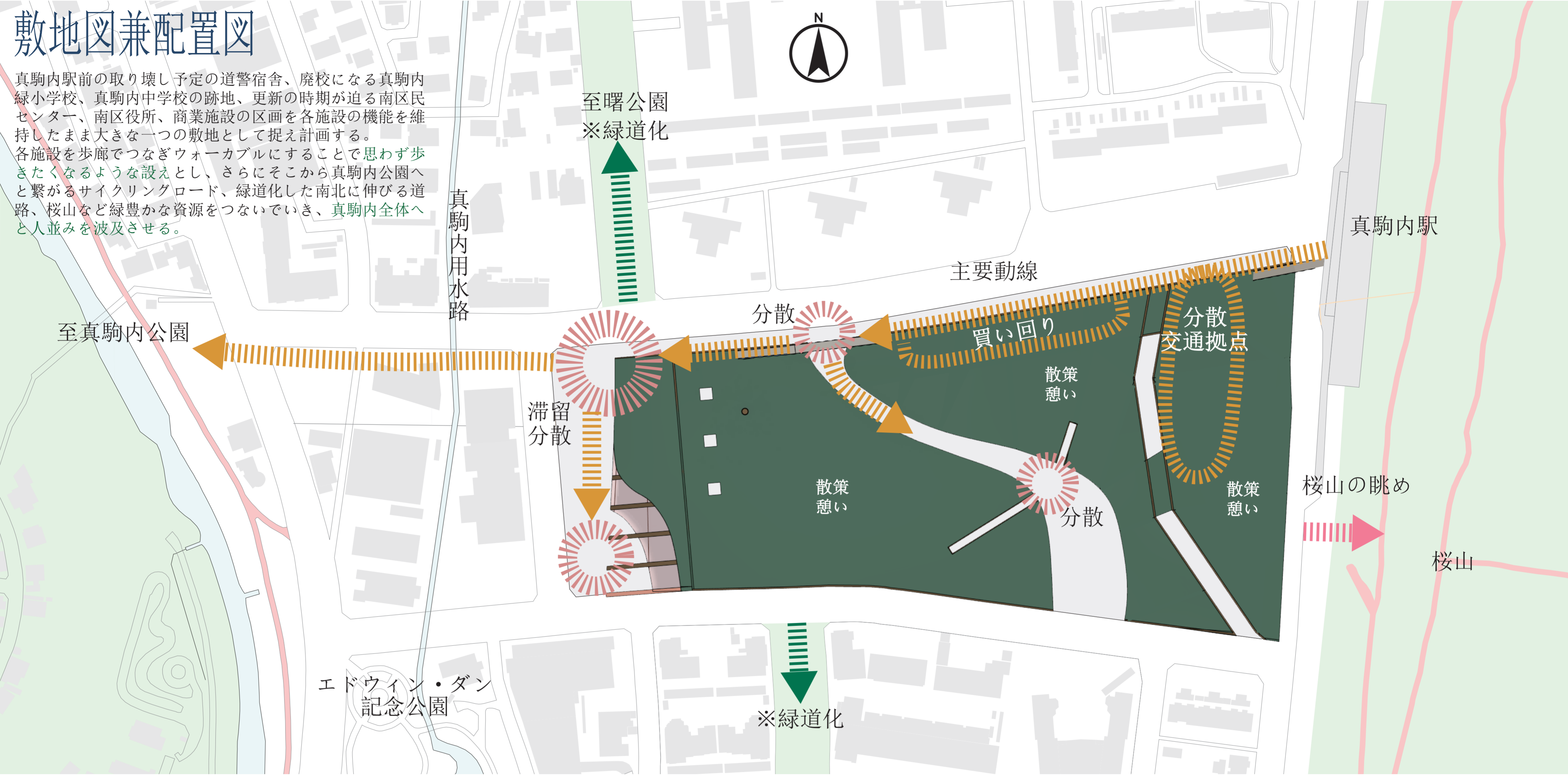


↑ 開発のたびに反対運動を引き起こす ↑



敷地図兼配置図

真駒内駅前の取り壊し予定の道警宿舎、廃校になる真駒内緑小学校、真駒内中学校の跡地、更新の時期が迫る南区民センター、南区役所、商業施設の区画を各施設の機能を維持したまま大きな一つの敷地として捉え計画する。各施設を歩廊でつなぎウォークアブルにすることで思わず歩きたくなるような設えとし、さらにそこから真駒内公園へと繋がるサイクリングロード、緑道化した南北に伸びる道路、桜山など緑豊かな資源をつないでいき、真駒内全体へと人並みを波及させる。



再整備を見つめ直す

日本各地どこも特色のない同じ風景ばかりになってしまうのではないのだろうか？ さらにそこに住んでいる住人の価値観や居場所を奪い去ってしまうことへ繋がる恐れをばらんでいるのではないだろうか？ **もっと住人や地域そのものの文脈に寄り添った再整備はできないのだろうか。**

高度経済成長期に開発された多くの建物や街が更新の時期に差し迫っている。利便性や型通りの再開発を一面的に行ってしまうと、

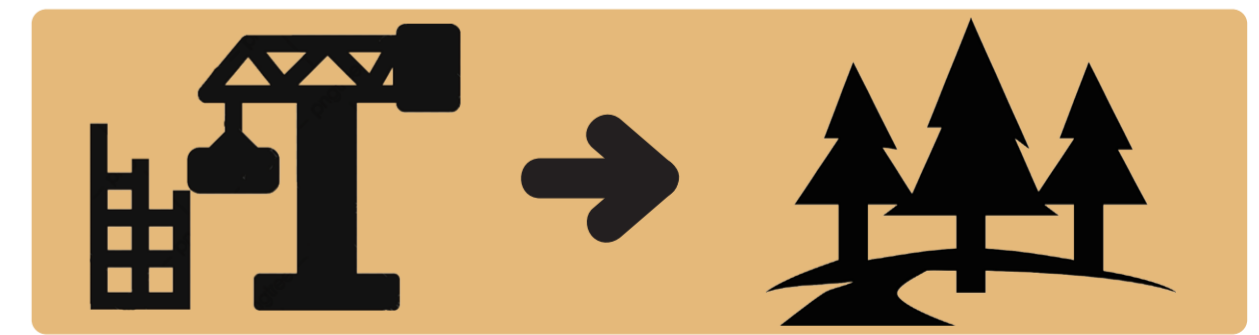
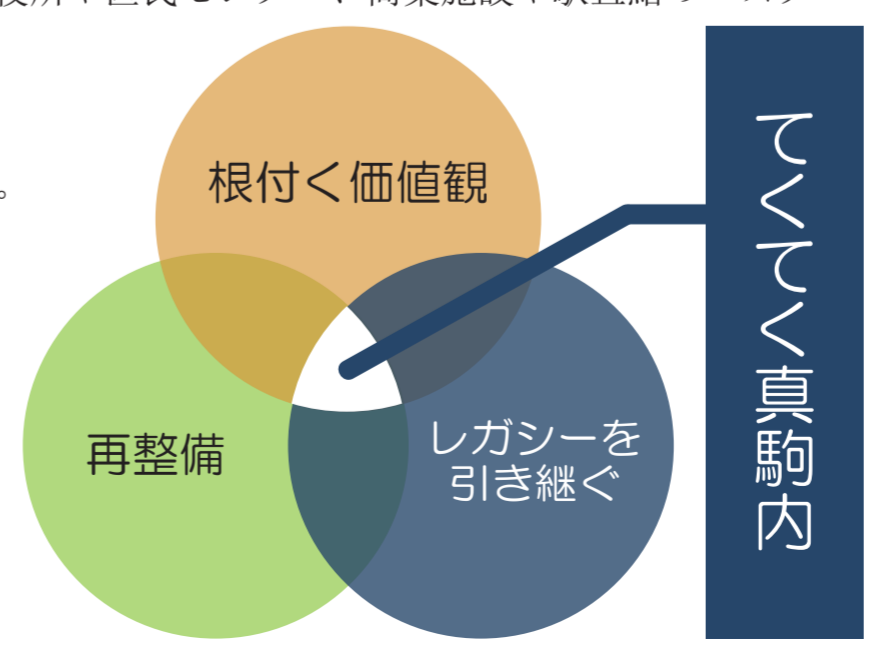
日本各地どこも特色のない同じ風景ばかりになってしまうのではないのだろうか？ さらにそこに住んでいる住人の価値観や居場所を奪い去ってしまうことへ繋がる恐れをばらんでいるのではないだろうか？ **もっと住人や地域そのものの文脈に寄り添った再整備はできないのだろうか。**



てくてく真駒内

レガシーを引き継ぐこと この3点を網羅した再整備を目指した。今回の真駒内に当てはめて考えてみると①区役所や区民センター、商業施設や駅直結のバスターミナルを新設すること ②「緑豊かでのどか」という価値観の尊重 ③3つの世代のレガシーを引き継ぐことに当たる。この3点を意識した再整備を行うことで地域住民に寄り添った開発を行うことができ、地域の記憶の継承を行うことも可能になるのではないのだろうか。さらに、日本各地に多様な風景を再び生み出すことへつながって行くことを期待する。

そこで、本設計では ①用途を満たす再整備 ②地域住人に根付く価値観を尊重すること ③地域にある歴史性や



賑わいを与える開発だけが正解なのか？



